



ローデ・シュワルツ独自のCMX500ワンボックス・テストがNTNテスト仕様に—MWC Barcelona 2026の注目製品

ローデ・シュワルツは、CMX500無線機テストの機能を拡張して、すべての非地上系ネットワーク（NTN）技術をカバーできるようにしました。他に類のない包括的なソリューションとして、業界の誰もが確信をもって信頼性の高いNTNサービスを展開できるように支援します。ローデ・シュワルツは、このアップグレードしたワンボックス・テストをMWC Barcelona 2026に出展します。



キャプション：CMX500は、ネットワークとデバイスの両レベルでのNR-NTNテストに対応した機能を数多く備えています。

ローデ・シュワルツのCMX500ワンボックス・シグナリング・テストは、NTNテスト向けのオール・イン・ワン多機能プラットフォームへと進化を遂げ、1台でNR-NTNとNB-NTN、Direct-to-Cell（D2C、DTC）技術に対応できるようになりました。このCMX500があれば、いくつもの計測器を必要とすることなく、ユーザーはネットワークとデバイスの両レベルですべてのNTN技術をテストできます。そのため開発が加速し、新しいNTNサービスでも確かな品質のもとで自信を持って展開可能になります。

非地上系ネットワークのテストにおける課題

NTNが5Gとともに成熟し6Gへ向かおうとするなか、その潜在的な能力を実現していくには重要な技術的ハードルの克服がカギとなります。地上系ネットワークとは異なり、NTNでは衛星という本質的に動的なものであるため、その通信には特有の課題があります。衛星の高速な運動から、たとえば周波数のドップラー・シフトや伝搬遅延の変動、大きな伝送損失などにより信号特性が頻繁に変化するため、テストには高度なチャネル・エミュレーションが必要となります。また、複数の軌道（LEO、MEO、GEO）と周波数帯を使うとさらに複雑さが増し、地上系ネットワークで一般的な時分割複信（TDD）ではなく、周波数分割複信（FDD）が求められる場合もあります。

NTNのテストに特化した追加機能

CMX500は5Gエコシステムにおいて確かな実績をもつ計測器ですが、ここ最近の取り組みとして、ローデ・シュワルツは衛星通信に特有の複雑さにも対応できるように機能を大幅に拡張してきました。これによって、CMX500は主に2つのテスト構成をサポートできるようになっています。Full Satellite Access Network（SAN）エミュレーションによって完全なNTNアーキテクチャをシミュレートしてデバイスの包括的なテストを行うデバイスメーカー向けの構成と、gNBおよび5Gコアネットワークをエミュレーションしながら規格準拠のセルラー技術に対して衛星ネットワーク・コンポーネントを検証する衛星ネットワーク事業者向けの構成です。

またConstellation Insight ToolがCMX500をさらに強化して、NTNテストシナリオをサポートします。このソフトウェアにより、エンジニアの皆様は効果的に実際の上空のデジタルツインを構築して、衛星コンステレーションをリアルタイムに可視化し、その運動を管理しつつ軌道を分析できるようになります。精密なエフェメリス・データを組み入れた現実的な運動と通信障害補正のシミュレートや複雑なハンドオーバー・シナリオに対応でき、自動的な展開・運用とハンドオーバーを可能にします。

ローデ・シュワルツはさらに、多様なStarlink LTE-DTCテストシナリオが含まれるXLAPI Pythonテストケース・パッケージも提供しています。これらのシナリオは、たとえばDTCモードにおけるLTEのアタッチ時間と成功率、Event A3ハンドオーバー、同一周波数のLTE DTCセル間でのセル再選択、LTE DTCセルにおける無線リンク障害（RLF）後の通信回復などをカバーします。また、AI搭載のスクリプト生成ツールScriptAssistによって、NTN固有の研究開発プロトコルやアプリケーション・テストのほか、計測器の自動化のためのスクリプトをもっと迅速に作成できるように、もう一歩踏み込んだ支援もユーザーに提供します。

そのうえ、ローデ・シュワルツのCMX500はコンフォーマンス試験においても業界をリードする存在であり、3GPPリリース17に基づくNR-NTNのための検証済みテストケースを最も多く提供して、NTNコンフォーマンス試験とキャリア受入テストをサポートします。しかも、その検証についてはプロトコル適合性試験（PCT）、無線周波数（RF）、無線リソース管理（RRM）という3つの重要なテスト領域すべてで実施済みです。

特にCMX500は、伝搬エミュレーションとフェージングを区別できる唯一のNTNテストソリューションです。ドップラー効果や遅延、散乱などの宇宙・地上間の影響と、反射やレシーバに起因したドップラー効果といった地上での障害を分離して扱えます。そのため、宇宙・地上間の影響と地上での障害が互いに独立したモデルを構築・制御でき、NTNシナリオのより正確で柔軟なテストが実現します。

ローデ・シュワルツの無線機テスト担当副社長Goce Talaganovは次のように説明しています。「NTNが5Gエコシステムの不可欠な要素となるにともない、その検証と試験には新たな水準の複雑さが生まれています。まさにそうした技術的ハードルを解決するため、当社の研究開発チームは、CMX500ワンボックス・テストの機能拡張に継続的にリソースを投じてきました。そして今回のMWC 2026では、統合プラットフォーム1台ですべてのNTN技術に完全に対応できるようにアップグレードしたCMX500ワンボックス・テストをご覧いただける運びとなりました。このソリューションがNTNテストのニーズにどのように役立つか、ぜひともお客様と詳しくお話できればと楽しみにしています」。

2026年3月2～5日にバルセロナで開催のMWC Barcelona 2026に来場の皆様には、ホール5・小間番号5A80のローデ・シュワルツ展示ブースにおいて、CMX500の広範なNTNテスト機能を実際に体験いただけます。

CMX500のNTNテスト機能について、詳しくは<https://www.rohde-schwarz.com/cmx-ntn>をご覧ください。

www.rohde-schwarz.com

お問い合わせ：

欧州（本社）：Christian Mokry（電話：+49 89 4129 13052、email：press@rohde-schwarz.com）

北米：Hannah Im（電話：+1 301 957-8357、email：hannah.im@rsa.rohde-schwarz.com）

アジア太平洋地域：Cheyenne Chui（電話：+65 6307 0053、email：press.apac@rohde-schwarz.com）

ローデ・シュワルツについて

ローデ・シュワルツは、電子計測、技術システム、ネットワークおよびサイバーセキュリティの各部門を通じ、より安全に“つながる”社会の実現に向けて努力を重ねています。グローバルな技術指向のグループとして、90年にわたって先端技術の開発を続け技術の限界を押し広げてきました。当社の最新製品やソリューションは、産業界や規制当局および行政機関のお客様がデジタル技術の主権を得るためのお力添えをしています。ドイツ・ミュンヘンを拠点としたプライベートな独立企業であり、長期的かつ持続的な経営を行える体制を構築しています。ローデ・シュワルツは、2024/2025会計年度（7月から6月）には31.6億ユーロの純収益を上げました。また、2025年6月30日現在、ローデ・シュワルツでは約15,000名の従業員が全世界で活躍しています。

R&S®は、Rohde & Schwarz GmbH & Co. KG. の登録商標です。

すべてのプレスリリースは、画像のダウンロードを含め、<http://www.press.rohde-schwarz.com>からインターネットでご提供しています。

東京都品川区西品川1-1-1 住友不動産大崎ガーデンタワー20階

〒141-0033

関野 敏正

電話番号：+81 3 5925 1270/1290

Toshimasa.Sekino@rohde-schwarz.com

www.rohde-schwarz.com/jp